

「黙れ、出て行け」

マルコの福音書 1:23~28

はじめに

今日はイエス・キリストの十字架の死からの復活を祝う「イースター」という祭りの日にあたり、世界中の教会でこれにちなんだ催しや取り組みがなされています。ところで皆さんは「イースター」という名前の意味を御存知でしょうか。実はこの名前は聖書とは何の関係もないものなのです。ゲルマン民族の神話に登場する春を司るとされる多産と豊穡の女神、その名をエオストレ(Eostre)と言います。イースターはこの名に由来すると言われていています。イースターには教会できれいに色を塗った卵を配る習慣がありますが、それもこのエオストレにまつわる一つの神話から始まったものです。皆さんはこの事実をどう思われるでしょうか。世界中の教会がイエス・キリストの復活を祝うと言いながら、聖書とは何の関係もない、いやむしろ神が忌み嫌われる偶像の名を口にし、そのしきたりに従っているのです。その是非を問うことは今日ではしませんが、ただ今日私が言いたいことは、このイースターという名の由来は、言葉の本来の意味を調べると、思いもよらない事実を知ることになるというその代表的な例だと言うことです。聖書に記された一つひとつの言葉もまた、その最初の言及に焦点を当て、本来の意味を調べるならば、そこには思いもよらないメッセージが隠されているということ、今日もともに味わっていきたいと思います。

【新改訳 2017】

マルコの福音書

1:23 ちょうどそのとき、汚れた霊につかれた人がその会堂にいて、こう叫んだ。

1:24 「ナザレの人イエスよ、私たちと何の関係があるのですか。私たちを滅ぼしに来たのですか。私はあなたがどなたなのか知っています。神の聖者です。」

1. 汚れた霊

ガリラヤのカペナウムという町に入られたイエシュアとその弟子たちは、安息日に会堂に入り、そこでイエシュアは聖書の御言葉について教えておられました。するとその会堂の中に「汚れた霊につかれた人」がいたと記されています。そしてその人はイエシュアに向かって叫び出しました。ではこの「汚れた霊」とは一体何でしょうか。その呼び名と言動からして神からのものではないことが分かりますが、ヘブル語で「汚れる、汚す、汚れている」ことをターマー(טָמַר)と言います。この言葉の本来の意味を知るために、ターマーが聖書で最初に使われた記述を見てみましょう。

【新改訳 2017】

創世記

34:1 レアがヤコブに産んだ娘ディナは、その土地の娘たちを訪ねようと出かけて行った。

34:2 すると、その土地の族長であるヒビ人ハモルの子シェケムが彼女を見て、これを捕らえ、これと寝て辱めた。

34:3 彼はヤコブの娘ディナに心を奪われ、この若い娘を愛し、彼女に優しく語りかけた。

34:4 シェケムは父のハモルに言った。「この娘を私の妻にしてください。」

34:5 ヤコブは、シェケムが自分の娘ディナを汚したことを聞いた。息子たちは、そのとき、家畜を連れて野にいた。それでヤコブは、彼らが帰って来るまで黙っていた。

これはアブラハムの子イサクの子ヤコブ（後のイスラエル）の家族に起こった事件ですが、ヤコブには12人の息子たち以外にディナという名の娘がいました。彼女をヒビ人すなわち異邦人のシェケムという男が「汚した」という記述が聖書で最初のターメーになります。この出来事は、今日ならば婦女暴行事件となるのかもしれませんが、法律も警察もない時代です。若い娘が一人で他人の土地をふらふら歩いていたら、たとえ殺されても文句が言えないような状況です。つまりシェケムの悪事というだけでなくディナにも落ち度はあるのです。しかしこのシェケムという男は悪人ではなく、このディナに「優しく語りかけ」、彼女を正式に妻として迎えようとしています。ですからこの出来事は、今日的な意味における婦女暴行による「汚した」という類のものではないと考えられます。それよりも若い娘が他人の土地に不用意に出かけて行ったこと、そしてそんな娘が異邦人の男と結婚してしまう（実際にはしなかったが）ことが「汚した」と訳されたターメーの持つ本来の意味が指し示すものであると考えられます。つまりこのターメーが指し示すものはイスラエルの家の者とそれ以外の者すなわち異邦人との結婚だと考えられます。後に神はイスラエルの民に対して与えられた律法において、このような異邦人との結婚を禁じておられます。

【新改訳 2017】

出エジプト記

34:10 主は言われた。「今ここで、わたしは契約を結ぼう。わたしは、あなたの民がみないるところで、地のどこにおいても、また、どの国においても、かつてなされたことがない奇しいことを行う。あなたがそのただ中にあるこの民はみな、【主】のわざを見る。わたしがあなたとともに行うことは恐るべきことである。

34:11 わたしが今日あなたに命じることを守れ。見よ、わたしは、アモリ人、カナン人、ヒッタイト人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人を、あなたの前から追い払う。

34:12 あなたは、あなたが入って行くその地の住民と契約を結ばないように注意せよ。それがあなたのただ中で畏とならないようにするためだ。

34:13 いや、あなたがたは彼らの祭壇を打ち壊し、彼らの石の柱を打ち砕き、アシェラ像を切り倒さなければならぬ。

34:14 あなたは、ほかの神を拜んではならない。【主】は、その名がねたみであり、ねたみの神であるから。

34:15 あなたはその地の住民と契約を結ばないようにせよ。彼らは自分たちの神々と淫行をし、自分たちの神々にいけにえを献げ、あなたを招く。あなたは、そのいけにえを食べるようになる。

34:16 彼らの娘たちをあなたの息子たちの妻とするなら、その娘たちは自分たちの神々と淫行を行い、あなたの息子たちに自分たちの神々と淫行を行わせるようになる。

【新改訳 2017】

エズラ記

9:12 だから今、あなたがたの娘を彼らの息子に嫁がせてはならない。また、彼らの娘をあなたがたの息子の妻にしてはならない。永久に彼らの平安も幸せも求めてはならない。それは、あなたがたが強くなり、その地の良い物を食べ、これを永久にあなたがたの子孫の所有とするためである』と。

結婚とは、単に二人の男女が交わす約束ではなく、本来は家と家、民族と民族が結びつく、一つになるという契約を意味していました。つまりイスラエルの神を信じる民が、他の神々を信じる民と契約を結ぶならば、結果的にその神々をも受け入れることになるということです。このようにターメー「汚す」が指し示すものはイスラエルの神以外の神々を受け入れる、信仰する「偶像礼拝」のことであると考えられます。神はイスラエルに与えられた「十戒」とも呼ばれる律法の、その初めにこの「偶像礼拝」について、御自分の他には神はいないことを、以下のように強く主張しておられます。

【新改訳 2017】

出エジプト記

20:1 それから神は次のすべてのことばを告げられた。

20:2 「わたしは、あなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出したあなたの神、【主】である。

20:3 あなたには、わたし以外に、ほかの神があってはならない。

20:4 あなたは自分のために偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、いかなる形をも造ってはならない。

20:5 それらを拝んではならない。それらに仕えてはならない。あなたの神、【主】であるわたしは、ねたみの神。わたしを憎む者には父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼし、

20:6 わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである。

イスラエルの神以外のものを神とする「偶像礼拝」、これは神の最も嫌われる、最も憎まれる罪と言っても過言ではありません。実に旧約聖書に記された歴史において、国家としてのイスラエルが滅ぼされた理由がこれでした。すなわち彼らがイスラエルの神以外のものを神とし、異邦人の神々、木や石や鉄の像を拝み、また神ではなく人の力、また自分たちの知恵と力に頼ったためでした。このような罪を犯させる霊、「偶像礼拝の霊」それがイエシュアに対して叫び出した「汚れた霊」の正体であると考えられます。

2. 叫ぶ

しかしこの「汚れた霊」が、かつてイスラエルを惑わせた「偶像礼拝の霊」であるとして、納得のいかないことがあります。それはこの霊が言った、正確には人に言わせたその内容です。「ナザレの人イエスよ、私たちと何の関係があるのですか。私たちを滅ぼしに来たのですか。私はあなたがどなたなのか知っています。神の聖者です。」この内容に間違いや嘘はありません。確かにイエシュアはナザレ人と呼ばれており、偶像礼拝とは何の関わりもない、イスラエルの神にのみ聞き従われる御方です。そしてやがてすべての偶像とそれを礼拝する者、礼拝させる者たちを滅ぼされます。そして神の御計画を完成さ

せる御方です。「汚れた霊」はイエシュアを「神の聖者」と呼びましたが、ヘブル語で「聖とする、きよめる、聖別する」ことをカーダシュ(צִדָּק)と言いますが、この本来の意味は、創世記に記された神の天地創造の御業の完成を指し示すものです。

【新改訳 2017】

創世記

2:1 こうして天と地とその万象が完成した。

2:2 神は第七日に、なさっていたわざを完成し、第七日に、なさっていたすべてのわざをやめられた。

2:3 神は第七日を祝福し、この日を聖なるものとされた。その日に神が、なさっていたすべての創造のわざをやめられたからである。

「天と地とその万象が完成した」、「この日を『聖なるものとされた』。」これが聖書で最初のカーダシュであり、神の御計画の完成、完了を指し示す言葉であることが分かります。イエシュアはまさにそれを果たされるために神から遣わされた「神の聖者」です。このように、「汚れた霊」であり、人に「偶像礼拝」の罪を犯させる霊でありながら、言っていることはすべて正しいとは一体どういうことなのでしょう。ここで注目したいことがあります。それはこの「汚れた霊につかれた人が…叫んだ。」ということです。ヘブル語で「叫ぶ」ことをザーアク(קָרָא)と言います。その本来の意味は出エジプト記の時代、エジプトの奴隷となっていたイスラエルの民が、その奴隷の苦しみのゆえに神に向かって助けを求めて叫んだことにあります。

【新改訳 2017】

出エジプト記

2:23 それから何年もたって、エジプトの王は死んだ。イスラエルの子らは重い労働にうめき、泣き叫んだ。重い労働による彼らの叫びは神に届いた。

2:24 神は彼らの嘆きを聞き、アブラハム、イサク、ヤコブとの契約を思い起こされた。

2:25 神はイスラエルの子らをご覧になった。神は彼らを見こころに留められた。

この「泣き叫んだ」と訳されている聖書で最初のザーアクは、神にかつて御自身がアブラハム、イサク、そしてヤコブすなわち後のイスラエルとその子孫と交わされた契約を思い起こさせることとなりました。その契約とは、イスラエルによって地上のすべての民族を祝福するというものです。

【新改訳 2017】

創世記

28:13 そして、見よ、【主】がその上に立って、こう言われた。「わたしは、あなたの父アブラハムの神、イサクの神、【主】である。わたしは、あなたが横たわっているこの地を、あなたとあなたの子孫に与える。

28:14 あなたの子孫は地のちりのように多くなり、あなたは、西へ、東へ、北へ、南へと広がり、地のすべての部族はあなたによって、またあなたの子孫によって祝福される。

28:15 見よ。わたしはあなたとともにいて、あなたがどこへ行っても、あなたを守り、あなたをこの地に連れ帰る。わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなたを捨てない。

この契約を神に思い起こさせ、イスラエルの民を奴隷の苦しみから解放するための「叫び」がこのザークの本来の意味であると考えられます。ですからイエシュアに向かって叫んだのは「汚れた霊」ではなく、「汚れた霊につかれた人」、つまり「汚れた霊」の奴隷となっていた人が、イエシュアに助けを求めて叫んだのだと考えられます。

【新改訳 2017】

マルコの福音書

1:25 イエスは彼を叱って、「黙れ。この人から出て行け」と言われた。

1:26 すると、汚れた霊はその人を引きつけさせ、大声をあげて、その人から出て行った。

3. 黙れ

そしてイエシュアこの人に向かって「黙れ」ヘブル語でアラム(רָמַם)、そして「出て行け」ヘブル語でヤーツァー(יָצָא)という言葉が使われました。実はこれらの言葉の本来の意味を調べますと、この訳からは想像もできないようなメッセージを導き出すことができます。まず「黙る」という意味のアラムについて。この最初の言及は創世記 37:7 になります。

【新改訳 2017】

創世記

37:6 ヨセフは彼らに言った。「私が見たこの夢について聞いてください。

37:7 見ると、私たちは畑で束を作っていました。すると突然、私の束が起き上がり、まっすぐに立ちました。そしてなんと、兄さんたちの束が周りに来て、私の束を伏し拝んだのです。」

これはアブラハムの子イサクの子ヤコブの 11 番目の息子ヨセフが見た夢について彼が話した内容ですが、ここで「束を作って」と訳されている箇所に聖書で最初のアラムがあります。このようにアラムとは本来、束ねる、集める、一つにするというような意味であると言えます。ヨセフが見たこの夢は、彼がエジプトの王に次ぐ権威に立った時に実現したと考えられますが、究極的にはイエシュアが再びこの地に来臨された時、イスラエルの民を集め、イスラエル王国を再建し、すべての国々がそれに従うようになる神の御計画、神の国の完成を指し示した夢であるとも考えられます。ですから「黙れ」と訳されたアラムには本来、イスラエルの民を一つに束ね、神の国を建て上げる神の御計画が指し示されていると考えられます。

4. 出て行け

そして「出て行け」と訳されたヘブル語ヤーツァーについて。これは創世記 1:12 にその最初の言及があります。

【新改訳 2017】

創世記

1:12 地は植物を、すなわち、種のできる草を種類ごとに、また種の入った実を結ぶ木を種類ごとに生じさせた。神はそれを良しと見られた。

1:13 夕があり、朝があった。第三日。

これは神の天地創造の御業の第三日についての内容です。ここで「実を結ぶ木を…『生じさせた。』」と訳されているのが聖書で最初のヤーツァーです。「種のできる草」そして「種の入った実を結ぶ木」を「生じさせる」こと、つまり種によってさらに増える、増え広がること、種族繁栄、これがヤーツァーの持つ本来の意味だと言えます。このように、イエシュアが言われた「黙れ。この人から出て行け。」という言葉は、「汚れた霊」に対してはこの訳の持つ意味の通りのものであったでしょう。しかし「汚れた霊につかれた人」、その人に対してはイスラエルの民に対する神の約束、御計画を指し示したものであったと考えられます。つまりこの会堂にいた一人の「汚れた霊につかれた人」とは、偶像礼拝の罪を犯したイスラエルの民に対する神の御計画を指し示した「型」、たとえであったと考えられます。確かに旧約聖書に記された歴史において、イスラエル王国はその偶像礼拝の罪、偶像の奴隷となったことによって滅ぼされました。イエシュアが最初に来られた時代も、イスラエルの民はローマ帝国の奴隷、またユダヤ人の指導者たちが本来の意味を捻じ曲げてしまった律法の奴隷となっていました。しかしこの奴隷となったイスラエルの民が再び神に向かって、イエシュアに向かってザーク「叫ぶ」時、イエシュアは再びこの地に来られ、世界中に散らされたイスラエルの民を集めアラム「一つに束ね」て、ヤーツァー「種族繁栄」すなわち、「あなたの子孫は地のちりのように多くなり、あなたは、西へ、東へ、北へ、南へと広がり…（創世記 28:14）」というアブラハム、イサク、ヤコブとの約束を果たされることが、イエシュアとその会堂にいた「汚れた霊につかれた人」との間に起こった出来事の中に「型」として表されていると考えられます。このように、ヘブル語の視点で捉えるならば、

「黙れ。この人から出て行け。」という言葉の中には、

「イスラエルの民よ集まれ。イスラエルによって祝福され、繁栄せよ。」

というようなメッセージが隠されていると考えられます。

5. パラレリズム

そして「汚れた霊はその人を引きつけさせ」とありますが、ここで「引きつけさせ」と訳されているヘブル語はサーハヴ(גַּחַב)と言い、この言葉の本来の意味も、先ほどのアラムと同じように一つにまとめて縛るという意味合いを持っています。

【新改訳 2017】

Ⅱサムエル記

17:13 もし彼がどこかの町に入るなら、イスラエル中の者がその町に縄をかけ、その町を川まで引きずって行って、そこに一つの石ころも残らないようにしましょう。」

これはイスラエルの王ダビデに謀反を起こした彼の息子アブシャロムが、ダビデをどのように攻めるかという作戦を企てた時のものですが、ここで「引きずって」と訳されているのが聖書で最初のサーハヴです。彼すなわちダビデ王が入った町を、町ごと一つに縛り上げる、一見悪い出来事のように感じてしまいが、先ほどのアラムとの関連性から考えるならば、これはダビデ王が入った、来られたことで町すなわち人々が一つになる、束ねられ、集められることを指し示していると考えられます。このダビデ王とは、ダビデの子とも呼ばれるメシアであるイエシュアを指し示していると考えられます。そして「大声をあげて、…出て行った」と記されていますが、ここにも先ほど取り上げた「奴隷の苦しみの

ゆえに神に叫ぶ」ことを意味するザーク、そして「種族繁栄」を意味するヤーツァーが使われています。つまり 25 節と 26 節はパラレリズム、すなわち同じ内容のメッセージを言い換えて二度繰り返すことで強調しようとしていると考えられます。このように、一見ホラー映画などで見るような悪霊払い、怪奇現象のような出来事も、ヘブル語の視点で見れば、そこにはメシアであるイエシュアによって果たされる、イスラエルの民に対する神の約束、御計画が表されていることが分かります。

6. 一つのこと

聖書とは、言葉や表現を換え、場所や人物を換えながら、ただ一つのこと、一つのメッセージを何度も何度も繰り返しながら補足説明を加え、それをより強調して、また詳細に伝えようとしている書物と言えます。そのメッセージとはもちろん「神の家、神の国」を造るという神の御計画です。そこには王なるイエシュア、イスラエル、聖霊、教会、天と地など、いくつかの重要な要素、存在が不可欠です。しかしこれらはすべてその「神の家、神の国」を完成させるために神が用意されたパーツ、各部分であるということです。すべてはこの「神の家、神の国」という御計画にかかっているのです。今日取り上げた出来事を通してその事実を垣間見ることができたと思います。神の御計画を強調するために、少し極端な言い方をしますが、神はイエシュアが人から汚れた霊を追い出されたように、私たちの苦しみや痛みを取り去るための御方、存在ではありません。御自分の御子であるイエシュアを王とし、アブラハムの子孫であるイスラエルの民を用いて、それに繋がるすべての人を祝福する世界、国、家を建てられる御方、「神の家、神の国」の御計画を完成させる御方なのです。私たちはこの真理に固く立たせていただく者でありたいと願います。私たちを取り巻く、目に映る環境、状況は決して良いものではありません。「助けてください、癒してください、守ってください…」つついこのような祈りが口から出てしまいます。しかし私たちが神を自分たちの問題解決や健康や安全、願いを叶えるための道具として捉えるならそれは「汚れた霊」すなわち「偶像礼拝の霊」です。偶像礼拝とは、自分のために神を使う思考を指します。思い違いをしてはいけません。私たちのために神がおられるのではなく、神が御自身の計画のために、私たちを含むこの天と地とそこに生きるすべてのものを創られたのです。ですからいつも「神の家、神の国」を思って祈りましょう。それは私たちの祈りによってそれがなるためではありません。私たちがそれを忘れることなく、いつも覚えているためにです。祈りましょう。

【新改訳 2017】

詩篇

27:4 一つのことを私は【主】に願った。それを私は求めている。私のいのちの日の限り【主】の家に住むことを。【主】の麗しさに目を注ぎその宮で思いを巡らすために。